

2017年6月30日

バーゼル銀行監督委員会（BCBS）による市中協議文書「グローバルなシステム上重要な銀行－評価の枠組みの見直し」に対するコメント

一般社団法人全国銀行協会

全国銀行協会として、バーゼル銀行監督委員会（BCBS）から2017年3月30日に公表された市中協議文書「グローバルなシステム上重要な銀行－評価の枠組みの見直し」に対してコメントする機会を与えられたことに感謝の意を表したい。

本件が検討されるに当たり、我々は以下のコメントがBCBSにおけるさらなる作業の助けとなることを期待する。

【総論】

我々は、グローバルなシステム上重要な銀行（G-SIBs）に対して、銀行が破綻した際のシステミックな影響を低減すべくリスクプロファイル等を変更するインセンティブ付けを行うという本枠組みの目的に賛同する。

本市中協議文書で検討されている枠組みの改正に関し、レベル・プレーイング・フィールドの確保やより適切なリスクの捕捉という観点からの改正には賛同するものの、改正に伴い必要となる計数の正確な集計を行うための態勢整備については、十分な準備期間を設けるべきであると考えている。

また、検討課題として提示されている、短期ホールセール資金調達を新たに指標に追加することについては、BCBSが2013年7月の公表文書にて「システム上の重要性はデフォルト時損失率（LGD）の観点から計測すべき」と言及したことを踏まえると、必ずしも適切ではない等の理由から、その導入には反対する。

なお、今回の改正の検討対象とはなっていないものの、スコアリングに用いるユーロ換算方法は、現行の12月末のスポットレートではなく、例えば、数年間あるいは1年間の平均値を使用するといった「為替レートの平準化」により、スコア判定における為替影響を極力抑制する公平な方法を採用すべきであると考えていることから、検討の対象としていただきたい。

【各論】

1. 「代替可能性」カテゴリーのスコア上限の撤廃について

「代替可能性」カテゴリーのスコア上限を撤廃するというBCBSの提案を支持する。

一部の金融機関への影響を考慮するという理由で、「代替可能性」カテゴリーのみにスコア上限を設定している現在の枠組みは、非常に歪曲した（highly

skewed) もので、レベル・プレーイング・フィールドに反するのみならず、金融機関のシステミック・リスクの度合いを計測するうえで、適切ではない。

2. 指標算出上の連結対象範囲の拡大について

指標算出上の連結対象範囲を保険子会社のエクスポージャーまで拡大するという BCBS の提案を支持する。

我々は、銀行の傘下にある保険会社が有するリスクが、グローバルなシステム上重要な銀行 (G-SIBs)、グローバルなシステム上重要な保険会社 (G-SIIs) のいずれの枠組みでも捕捉できていないという、BCBS と同様の問題意識を持っており、本市中協議文書の改正により、銀行傘下の保険子会社のリスクがカバーできると考える。

3. 「代替可能性」カテゴリーへの「Trading Volume」の追加について

仮に本指標を追加する場合、指標の定義を明確化したうえで、態勢整備のための十分な準備期間を設けるべきである。

「Trading Volume」の定義（例：中央清算機関 (CCP) 経由取引の扱い等）を個別具体的に明確化しなければ、解釈の相違により金融機関毎に報告する内容が相違してしまうため、丁寧な定義設定が必要である。

なお、一部の金融機関においては、必ずしも「Trading Volume」の計測態勢が十分に整備されていない。そのため、これらの金融機関にとって、網羅的に正確な計数を集計するためには、社内のシステム開発や手続き制定、リハーサル実施を含め、態勢整備に向けた相応の準備期間 (G-SIBs 選定の本枠組みの導入時の状況を踏まえると、少なくとも3年程度) を要する。

4. 短期ホールセール資金調達に関する指標の追加について

短期ホールセール資金調達を指標に追加することについて、次の理由により反対する。

まず、短期ホールセール資金調達の多寡は、主としてデフォルト確率 (PD) に影響するものである一方、本市中協議文書に記載されているとおり、デフォルト時損失率 (LGD) に与える影響については意見が分かれている。BCBS が 2013 年 7 月に公表した「グローバルなシステム上重要な銀行：更新された評価手法及びより高い損失吸収力」では、「銀行のグローバルなシステム上の重要性は、銀行破綻が発生するリスク (PD) というよりも、銀行の破綻が金融システムや経済に与える影響 (LGD) の観点から計測されるべきである」としている。よっ

て、短期ホールセール資金調達の多寡が LGD に与える影響は必ずしも明らかになっていない中、短期ホールセール資金調達を新たに指標に追加することは、LGD の観点から各銀行のシステム上の重要性を計測し、G-SIBs を選定する本枠組みのコンセプトを踏まえると、必ずしも適切ではない。

次に、短期ホールセール資金調達については流動性カバレッジ比率（LCR）等の流動性規制によりすでに制約を課しており、それを G-SIBs の選定指標として用いることは規制の重複につながる。

現在提案されている短期ホールセール資金調達の指標では、例えば、米国債を担保とするレポ取引と無担保の大口預金やインターバンク取引とを区別できず、安定性が極めて高い取引にまでペナルティーを課してしまうことになる。また、短期ホールセール資金調達の多くはインターバンクのものと想定されるため、「相互連関性」カテゴリーの指標と重複する。したがって、万が一短期ホールセール資金調達を指標化する場合は、資金調達のリスクの程度に応じてカテゴリーを定め、カテゴリー毎に掛目を設定する等の措置が必要である。

また、すでに自国の G-SIBs に対する資本サーチャージの枠組みの中に、短期ホールセール資金調達を指標として導入している米国においても、米財務省が 2017 年 6 月 12 日に公表した Trump 大統領宛ての報告書では、「米 G-SIBs に対する資本サーチャージの枠組みについて、短期ホールセール資金調達の要素を外すことも含め、見直しを行うべき」と提言している。こうした議論も踏まえて、グローバルな規制の調和を図るという観点で、今回の BCBS による提案内容についても、慎重な議論が必要である。

5. スコアリングの際のユーロ換算レートについて

スコアリングに用いるユーロ換算方法は、現行の 12 月末のスポットレートではなく、例えば、数年間あるいは 1 年間の平均値を使用するといった「為替レートの平準化」により、安定性と予測可能性を高める等、スコア判定における為替影響を極力抑制する公平な方法を採用すべきである。

システム上の重要性は、日々の為替の動向により変わるものではないため、G-SIBs 選定に用いるスコアは、為替変動の影響を極力抑制し、安定性や予測可能性を重視すべきである。その結果として、対象行が大きすぎて潰せない (TBTF) 問題に対処するため、金融システム上重要性が高い取引等について自律的なコントロールの強化を促していくことが望ましい。

金融市場のボラティリティは、地政学リスクの示現等によりオーバーシュートしてしまうことがある。その結果、スコアリングの際にスポットレートを適用する現行のルールでは、Appendix の図表のとおり、為替レートのボラティリティがスコアリング結果に極めて大きな影響を与え得るため、期中の活動を含めた実態的な金融システムへの影響度が見えにくくなってしまいう懸念がある。

また、金融機関がシステム上の重要な評価指標に関するスコアを低減させる、すなわち、システミック・リスクを引き下げるという自助努力を行ったとしても、為替市場という外的要因による影響を大きく受けてしまう。そのため、金融機関によるリスク削減のインセンティブを弱める結果につながり得る。

さらに、為替レートのボラティリティがスコアリングに与える影響という観点では、ユーロを主軸通貨とする法域内の金融機関とそれ以外の金融機関との間にレベル・プレーイング・フィールド上の問題が発生する。

したがって、G-SIBs 選定に用いるスコアの安定性や予測可能性を高め、金融機関の自助努力によるリスク削減のインセンティブ付けを行い、法域間のレベル・プレーイング・フィールドを確保するために、スコアリングに用いるユーロ換算方法は、上記で述べたように、「為替レートの平準化」により為替影響を極力抑制した公平な方法を採用すべきである。

【Appendix】

<為替レートが邦銀のスコアへ与える影響（試算）>

		適用為替レート (EUR/JPY)						
		BCBS採用値 (2015年12月31日時点)	日次レート			3年移動平均レート		
			直近2年最高値 ^{※1}	直近2年最安値 ^{※1}	最高値のスコアと最安値のスコアの乖離幅	直近2年最高値 ^{※1}	直近2年最安値 ^{※1}	最高値のスコアと最安値のスコアの乖離幅
		131.07	111.11	140.57		127.85	135.31	
スコア（試算） ^{※2}	A社	269	318	251	67	276	261	15
	B社	167	198	156	41	172	162	9
	C社	154	182	144	38	158	149	9
	D社	102	120	95	25	105	99	6
	E社	105	124	98	26	108	102	6
	F社	60	71	56	15	62	58	3

※1：2015年5月18日から2017年5月17日までの間の最高値、最安値（Bloomberg：BGNレート）

※2：スコアリング算出上の分母は据置き（BCBS公表値）と仮定

以 上